

新茶ができました

市内の茶の生産農家 14 戸で組織する JA ながさき西海松浦茶業部会（松本敏明会長）が 5 月 29 日、収穫した新茶の報告に訪れました。

この日は、同部会から市長に、市内 6 工場で作られた茶葉を特別にブレンドした新茶が振舞われ、市長は、「家で過ごす機会が増えた今こそ松浦の美味しいお茶を多くの方に味わってほしい」と話しました。

松本会長は「今年は 20 トリの生産になった。旨味と香りのバランスがとれた深みのある良いお茶ができました」と述べました。



疫病退散！消毒液を寄付

有限会社酒の一斗（池野晋一社長）は 5 月 14 日、松浦市に消毒用次亜塩素酸水「キンとらんば（2L）」84 パックを寄付しました。また、同社は新型コロナウイルスの終息を祈願し、疫病除けの伝説がある妖怪「アマビエ」をモチーフに、オリジナル麦焼酎の売り上げ 1 本につき 400 円を、松浦市を含む 5 市町の教育委員会へ寄付する取り組み「アマビエチャレンジ」も報告。

池野社長は「学校や介護施設等で活用してもらうため準備しました。今後も皆さんの役に立つ商品を作っていきます」と述べました。



全国各地で一斉打ち上げ

新型コロナウイルスの終息を祈願し全国一斉に花火を打ち上げるプロジェクト「Cheer Up! 花火プロジェクト」が 6 月 1 日、福島町土谷免で実施されました。

毎年夏に行われる花火大会は、飢餓や疫病が流行した江戸時代に、悪疫退散を願い幕府が打ち上げたことが起源とされています。これをもとに全国の花火職人たちによって企画され、この日花火を見て皆さんに元気を出してもらおうと、県内で唯一打ち上げられた花火は一段と輝き、多くの人に元気を与えました。



新入生に傘を贈呈

JA ながさき西海（松田辰郎代表理事組合長）は 5 月 28 日、松浦市内の小学校に入学した 1 年生 198 人に、雨が降る日も安全に登校してもらおうと、ドライバーからも目立つ、黄色の傘を贈呈しました。

贈呈された傘は、一部に透明なビニールが使用され、傘をさしていても前が見えるつくりになっています。

浦田啓四郎専務は「梅雨に入る前に各小学校に配布し、交通安全に努めてもらいたい」と話しました。



松浦市のためボランティア！

電源開発株式会社、九州電力株式会社は、6月の環境月間の取り組みとして共同で様々なイベントを行いました。

6月9日は、綺麗な状態で松浦の海を楽しんでもらおうと、大崎海水浴場の清掃を行いました。この日は50名が集まり、海水浴場周辺のごみや漂流物を拾いました。清掃に参加した電源開発の早川宏所長は「今年から松浦に赴任してきましたが綺麗な海ですね。夏前に作業が実施でき、良かったです」と話しました。



イチゴを前に大はしゃぎ

合同会社 守山ファーム（守山清和代表）は、5月上旬から本社近郊の保育園、幼稚園へ同農園で育てたイチゴを寄付しました。守山代表は6月2日、ほしか保育園を訪れ子どもたちへ直接イチゴを渡しました。イチゴを見た園児たちは、「早く食べたい」「何個まで食べれる？」と大はしゃぎでした。

守山代表は「少しでも多くの子どもたちに松浦のイチゴを食べて、そのおいしさを知ってほしい。特に、幼い子どもたちにイチゴを届けられる活動をしていきたい。」と話しました。



「松浦市読書推進計画」 キャッチフレーズ募集

問 松浦市立図書館 ☎ 72-4677

読書活動推進のためキャッチフレーズを募集します。

【対象】

どなたでも応募可能です。

【応募期間】

7月1日（水）～8月30日（日）

※必着（郵便は当日消印有効）

【応募方法】

応募用紙に必要事項を記入の上、松浦市立図書館に提出（持参、郵送、FAX、Eメール）

※応募用紙は図書館に設置（ホームページからもダウンロードできます）

【発表】

令和2年11月を予定しています。

【表彰】

最優秀賞

※賞状と副賞（図書館カードまたはクオカード）

ふれあい体験活動

志佐小学校4年生約80人が6月9日、体験学習活動として志佐町里地区の畑でサツマイモの苗植えを行いました。

同校の体験学習は、苗植えから収穫までの活動を通して、地域の農業や食への関心を深めるとともに、食の大切さや感謝の心を養うために毎年実施されています。

子どもたちは、老人クラブ「里不老会」のメンバー19人に、植えつけの仕方などの説明を受けながら、丁寧に苗を植えていきました。

